

シンポジウム: HIV 感染症の受入れを阻むものは何か？

謹啓

現在、わが国には約3万人のHIV感染者がいると言われていています。幸い、抗レトロウイルス療法の進化によりHIVのコントロールができるようになりましたが、HIV感染症は予後が改善し慢性疾患になったがゆえに、乗り越えなければならない医療・介護上の課題が増えています。そこでこの度、受入れ困難が問題となっている領域の先生方にお集まりいただき、単刀直入にその阻害要因を議論して頂くことにしました。是非、HIV感染症に関わっておられる医師や医療従事者、行政職の皆様、その他の関係者にお集まり頂き、一緒にお考え頂いて阻害要因のブレークスルーにつなげていきたいと存じますので、よろしくお願い致します。

敬白

令和元年11月吉日

世話人 国立国際医療研究センター腎臓内科 日ノ下文彦

◆日時 2019年12月21日(土) 午後2時00分～午後5時15分

◆プログラム(予定):

- ・開会の辞 「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」班 横幕能行 研究班長
- ・講演1「長期療養および介護領域におけるHIV感染症受入れの阻害要因」(2:05-2:45 pm)
司会: 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部 葛田衣重先生
演者: 名古屋医療センター相談支援センター 浅海里帆先生
- ・講演2「歯科領域における全国ネットワーク作りと受入れの阻害要因」(2:45-3:25 pm)
司会: 名古屋医療センターエイズ総合診療部長 横幕能行先生
演者: 名古屋医療センター 歯科口腔外科部長 宇佐美雄司先生
- ・休憩
- ・講演3「HIV感染透析患者の受入れ経験」(3:40-4:00 pm)
司会: 藤田医科大学腎臓内科学教授 稲熊大城先生
演者: 増子記念病院腎臓内科主任部長 安田香先生
- ・講演4「全国的なHIV透析ネットワークの展開と受入れの阻害要因」(4:00-4:20 pm)
司会: 藤田医科大学腎臓内科学教授 稲熊大城先生
演者: 国立国際医療研究センター腎臓内科診療科長 日ノ下文彦
- ・パネルディスカッション「HIV感染症の受入れを阻むものは何か？そしてその解決策は？」
(4:20-5:10 pm) 司会: 日ノ下文彦
パネリスト: 横幕能行先生、葛田衣重先生、浅海里帆先生、宇佐美雄司先生、稲熊大城先生、
安田香先生、愛知県保健医療局健康医務部健康対策課 大参秀徳課長補佐様、
新可児クリニック 二村弘一先生、えばた歯科 江幡晃治先生、
名古屋医療センターHIVコーディネーター 三輪紀子先生、
国立国際医療研究センター病院ACC 池田和子先生
- ・閉会の辞 愛知県透析医会 会長 稲熊大城先生 (5:10 pm)
- ◆場所 JPタワー名古屋 ホール&カンファレンス 3階ホール
- ◆受付 ご来場の皆様には会場前でご記帳をお願いします。参加費は無料です。
- ◆問合せ先 国立国際医療研究センター腎臓内科の秘書 豊田もしくは日ノ下まで
TEL 03-3202-7181(代) E-mail: ctoyota@hosp.ncgm.go.jp

主催: 厚生労働行政推進調査事業「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究班」